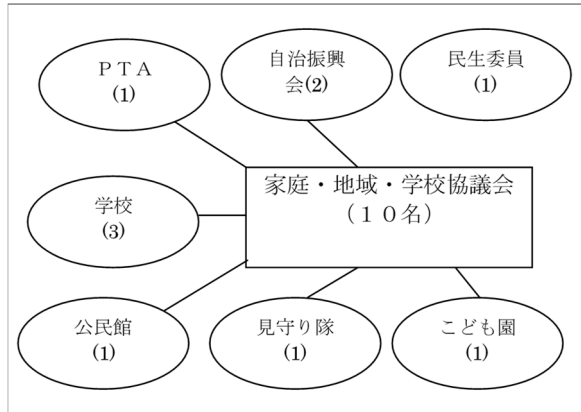


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- 第1回協議会（6月21日）
- ・協議会の構想
 - ・学校教育目標、行事計画
 - ・地域を活かした教育計画
 - ・学校評価 項目検討 等
- 2回協議会（2月6日）
- ・学校公開参観
 - ・学校評価 結果考察
 - ・今年度の成果と課題 等
- （11月 学校公開参観）

(3) 協議会における成果と課題

協議会委員の方には、学校公開時に来校していただき、授業や活動を参観していただいた。地区振興会長が委員の一員であることや、公民館長を地域コーディネーターとしてお願いしていることから、振興会内部の組織や公民館での活動と連携して、教育活動を進めることができた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ・児童が、服間地区の良さや問題点を知り、課題を自分たちで設定して、地域の人の力を借りて、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育成する。
- ・郷土を愛し、地域の人と共に郷土を大切にしていける豊かな心を育成する。
- ・学び方やものの考え方を身に付け、その力を生かし、よりよく生きる態度を育成する。

(2) 活動の実際

①「米作りとふくま総合文化祭での販売」（5学年）

ボランティアの方々の協力を得て、米作りを体験した。本やインターネットで調べる以外に、実際に稲を観察記録して成長を確かめてきた。10月に開催されたふくま地区総合文化祭に参加し、米をおむすびにして、地域の方に販売した。販売のための看板・宣伝用のぼり旗・飾り付け・販売方法・PRの仕方を話し合っ計画し実践した。



②服間2020大作戦（6年生）

4月に、今年度のテーマについて6年生が話し合いを行った。これまでの6年生の取り組みを引き継ぎ、『服間地区を盛り上げよう』というテーマのもと、キャッチフレーズを考え、グループで話し合っていくつかの案を出し合った。そして、学年全体で話し合っ『服間2020大作戦』となった。その後、来年度以降も継続した取り組みとして、風鈴作りを全

校で行うこととした。公民館と協議した結果、地区の行事の際に飾ってもらうこととなった。6年生がはじめに作り、改善センターで7月に開催された「そうめんながし」のイベントの時に、センターの玄関に飾ることができた。その後、6年生が中心となり、縦割り班ごとに風鈴を作った。地区の夏祭りに飾るときには、地域の方々が立派な飾り台を作ってくださいるなど、地域の方々と協力して活動できた。



③高齢者福祉とふれあい体験（4年生）

4年生はボランティア塗り絵講座や高齢者とのふれあい活動等を通して、地域で取り組む福祉について学習を深めた。公民館の高齢者体力測定にボランティアとして参加し、地域のシニアの方々と一緒に活動する機会を持つことができた。また、12月には服間地区の高齢者施設「メゾンいまだて」を訪問した。高齢者の方々も楽しめる出し物を子どもたちが話し合いながら準備し、どのようにサポートするとよいのか、留意点は何か考えて活動を行うことができた。直に、高齢者の喜びの声や表情に触れることで、児童なりの達成感を得ることができた。

（3）地域コーディネーターの活動概要

- ・ふくま地区夏祭り、総合文化祭への小学生参加に関する連絡調整、第6学年の風鈴を飾ることへの協力をいただいた。

（4）特に工夫した事項

- ・10月の地区総合文化祭に、体験活動の発表の場を設けた。
- ・福祉施設「メゾンいまだて」、ふるさと体験施設「もやいの里」、農業団体「ロハス越前」等、地域の団体・施設に協力をいただき、体験学習を進めた。
- ・学校ボランティアを募集し、たくさんの方に協力を得られるよう調整した。
- ・学校公開日に、家庭・地域・学校協議会の方々、学校ボランティアの方々にも開催案内を送り、授業や学校の様子を参観していただいた。
- ・「親子で学ぶ道徳講座」の事業実施に対して、PTAの協力のもと、親子（家族）で取り組み、親子で振り返る活動を行ってきた。

（5）成果と課題

ボランティアの方々に協力をしていただくことによって、適切な指導を受けることができたり、予定している時間内に活動を終えることができたりして有意義であった。児童数は少ないが、活動をとおして地域の方々と児童が中身のある深い交流をすることができた。少ない児童数をデメリットではなくメリットとして生かすことができた。

幅広く地域の方とつながりを持ち、支援をしてほしい内容に合わせて協力していただける人材を見つけておくこと、後継者問題等、世代のつながりを考慮した人材のネットワークを広げていくことが、今後も大切だと感じている。